

令和3年度実施事業 課題対応取組み一覧表

【資料11】

【総合相談窓口(ランチ)】

区名	ランチ名	カテゴリー	活動テーマ
北区	大淀	地域や専門職とのつながり等	認知症高齢者等にやさしい地域づくりを目指してキックオフ コロナ禍で集会場が活用できない中での『カフェOKJ通信』継続活動
	梅田東	自立支援・介護予防等	コロナ禍の高齢者の実態把握を行い、フレイル予防の啓発活動を行う
	豊崎	地域や専門職とのつながり等	地域のつながり再構築
西区	花乃井	社会資源の創設	コロナ禍における活動の再開
港区	港南	地域や専門職とのつながり等	地域や専門機関同士が気軽に連携が取れる体制を構築し、要介護者の早期発見を目指す
	市岡東	地域や専門職とのつながり等	複数の支援機関や地域関係者との協働支援
	築港	地域や専門職とのつながり等	コロナ禍が続く中でつながりを絶やさない、その人の暮らす場所へ見守りの目を届ける
浪速区	日本橋	地域や専門職とのつながり等	総合相談窓口の周知・啓発活動の拡充、地域のつながり強化
	難波	地域や専門職とのつながり等	支援が必要となる人への前の段階への周知
生野区	大池	地域や専門職とのつながり等	コロナ禍での地域住民の孤立化を防ぐ
	生野東	地域や専門職とのつながり等	・地域の実態把握とランチの周知活動 ・認知症に対する理解と、認知症予防に対する取り組み
	田島	地域や専門職とのつながり等	コロナ禍においても早期相談できる関係づくりの継続
	新生野	地域や専門職とのつながり等	相談内容件数が多い認知症への取り組み 高齢者への認知症予防対策 地域住民(若い夫婦世代・児童含む)に対する、認知症啓発
	新巽	地域や専門職とのつながり等	複合的な課題をかかえる世帯への多面的な支援と他機関連携し地域資源を活用していく 地域の実態把握とランチの周知活動を行う
阿倍野	昭和	地域や専門職とのつながり等	早期発見・早期対応に向けた、幅広い世代に対する周知活動について
住之江	南港北	地域や専門職とのつながり等	権利擁護の知識向上を図る
東住吉	矢田東	地域や専門職とのつながり等	地域の身近な相談窓口としてネットワークを広げる
	白鷺	地域や専門職とのつながり等	高齢者の支援を地域関係者と協働し行えるように、顔の見える関係づくりを通して、早期相談につなげる
	矢田西	認知症高齢者等の支援	地域高齢者との顔の見える関係性の構築
西成区	天下茶屋	地域や専門職とのつながり等	男の足湯『のぞみ屋』の地域への発信
	山王	社会資源の創設	続～地域住民が主体的に参加できる活動を通じて総合相談窓口の周知を図る
	成南	社会資源の創設	地域高齢者の居場所作り
	梅南・橘	社会資源の創設	身近な集いの場の発展から、地域住民がつながるまちづくり
	南津守	認知症高齢者等の支援	認知症高齢者への支援体制について
	あいりん	認知症高齢者等の支援	情報弱者である、あいりん地域住民に対しての支援(ワクチン予約・給付金申請)

課題対応取組み報告書

名称	北区大淀地域総合相談窓口
提出日	令和 4 年 5 月 30 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等)
	☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他 ()
活動テーマ	認知症高齢者等にやさしい地域づくりを目指してキックオフ コロナ禍で集会場が活用できない中での『カフェOKJ通信』継続活動
地域ケア会議から 見えてきた課題	総合相談や、地域ケア会議において、どここの機関にもつながらないケース、つながるまでに時間を要するケース、金銭課題のあるケース、成年後見等の必要なケースが増加している。専門職だけでも、地域だけでも達成できない、枠を超えた見守り体制の構築が必要である。見守りといえど、その程度は、様々である。 高齢化率の高い住宅では、住民間、家族とのつながりが薄くなっておられる方もある、特にコロナ禍、孤立、フレイルに陥ることが推測された。拠り所となるはずの、集会所は、コロナ禍で、使用制限が続いている。
対象	北区ハートフルオレンジチーム (認知症初期集中支援チーム、以下「オレンジチーム」という) ・総合相談窓口 (ブランチ) (以下「ブランチ」という) 圏域3地域の地域福祉コーディネーターからスタートし仲間を増やしていく。 北住宅の町会活動メンバーとブランチ母体組織、各機関 (協力掲載として：見守り相談室、オレンジチーム、大淀東地域福祉コーディネーター、びろうじゅおおよど)
地域特性	ブランチの圏域は、大阪駅から徒歩圏内で、梅田スカイビル、ザ・シンファニーフォールなどが存在する。介護事業所などは、少なく、入院できる病院がない。大阪駅前の二期開発が進み、地域が、どう変わっていくのか、新旧住民や企業が、どう融合していくのかと、意識を持つ住民も多い。日頃から、各会館等を中心に、地域活動協議会、ボランティアなど、熱心に活動されている。各地域に地域福祉コーディネーターが設置されており、民生児童委員とともに、その役割も幅が広がり、各地域の力を生かした活動がなされている。後継者の課題も発生している。 大淀北1丁目に位置する大淀北住宅は、約120世帯が居住、内、100名近くが70歳を超えている。11階建、エレベーターは各階に停まる。十三バイパス、淀川が近在する。阪急神戸線/中津駅・地下鉄御堂筋線/中津駅・JR東海道本線/大阪駅が最寄り駅となる。北区役所や社会福祉協議会からは距離があり不便である。大淀東地域の福祉会館や中三会館まで、成人で徒歩10分弱程度 (高齢者では倍ほどの時間がかかる。) の距離がある。おおよその中間地点にスーパーがある。バスを利用する方も多く、大阪、十三、中津、福島、野田阪神等の駅の付近が生活圏域と言える。数十年前では、集会場を活用し、住民同士の拠り所があった。住宅周囲の敷地は広く、中庭がある。
活動目標	北区はオレンジチームと、課題を共有。今後の活動をともに考えていく土台作りキックオフ会議を行い、次に各地域福祉コーディネーター、地域包括支援センター (以下「包括」という) が参加のもと、圏域内地域ケア会議を開催をし、意見交換を経て、関係をより密にし具体的な、率直な意見を導き出す。 コロナ禍でもできる、カフェOKJ通信を継続する。孤立しないでつながること・フレイル予防をテーマとし、専門職に手書きでコメントをいただき、住民と専門職とがつながっていることを見える化していく。そして、課題や取り組みを共有し、ともに考え、それぞれが、十分に力を発揮できることを互いに学び共感を積み重ねる。
活動内容 (具体的取組み)	北区オレンジチームと取り組もうとしていることを相談、ブランチ連絡会にて北区大淀包括へ打診。各地域福祉コーディネーターと事前調整を行う。北区オレンジチーム「キックオフ会議」を10/12に開催。まずは、地域の状況を知る。地域の意見、課題を抽出し、整理していこうということになった。ツールとして、「小地域 (ブランチ圏域・中学校区) ケア会議」を11/29北区オレンジチーム、大淀ブランチで共催。各地域福祉コーディネーター、北区大淀包括が参加。活発な意見交換がなされた。それぞれの地域が取り組もうとしていることや思いが共有できた。(この後、蔓延防止重点措置へ) 「孤立しないでつながること と フレイル予防」というテーマで、6月 8月 10月 12月の2号～6号のOKJ通信を住宅のホワイトボードへ掲示 資料参照 協力掲載機関：見守り相談室、北区オレンジチーム、地域福祉コーディネーター、びろうじゅおおよど 毎回、事前調整、掲示する日、住宅の住民からは、その間の状況、課題等を共有し互いにできることを模索、つながる専門職の機関のカラーなども説明。専門職や地域の機関へは、コメント記入時に、主旨等を説明させていただいた。

成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	北区オレンジチーム、地域福祉コーディネーターとは、今回をきっかけに、課題共有・意見交換ができ、地域への啓発などを行うことができた。各地域福祉コーディネーター、オレンジチームとも個別対応でも役割をもってそれぞれが、一つのケースに向き合ってきた。今後は、認知症の方や家族を支えるしくみを視野に入れて協働できることを期待する。 コロナ禍で、集会所を活用しての活動はできなかったが、様々な専門職の機関と住宅が通信を介してつながった。関わった母体組織のスタッフは、身近に住民を感じ、思いを直接聞いて、共存する組織として何ができるかを考える機会となった。住民とつながって小さな役割を果たすことを実感できた。個々で考えるのではなく、一緒に作り上げていくことで、ともに共感が生まれて次の活動への力となっている。
今後の課題	個別相談などに時間を要する場面があったり、母体組織として、新型コロナウイルス感染状況蔓延防止重点措置となったことや、新型コロナウイルスの感染状況から、地域での活動を大きく制限した。現状を踏まえ立て直す必要がある。臨機応変に変動できるような取り組み体制が必要。より深く、より広く、機関や住民が協働していくことが課題。時期を見極めて、活動者皆と住民が楽しみながら、学習できる機会を持てるよう取り組む。 住民の意見は様々であるが、どうしても偏った情報しか入ってこない状況から、日常のつづきから、より広い意見を収集整理できるような取り組みが必要。新型コロナウイルス感染症感染拡大が落ち着き、集会所が活用できるようになれば、講演や学習会、写真展示会などを開催していく予定。
以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 4年 7月 19日 (火)
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性 ☐ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取り組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	認知症高齢者等にやさしい地域づくりのために関係機関との会議を開催し、個々の役割を確認。また、コロナ禍において地域での活動が制限される中、高齢者の居住割合の高い住宅をターゲットとし、地域と関係機関とで一緒に手書きの通信を作成・掲示することにより、住民が関係機関に対し親近感を感じ相談しやすい関係を築いており、地域性・継続性・独自性のある取り組みとして評価できる。 コロナ禍により集会所に集まっていた活動に制限もあるが、中でも高齢者の孤立を防ぐための活動を引き続き住民と関係機関とで一緒に考え取り組むことを期待する。

課題対応取組み報告書

名称	北区梅田東地域総合相談窓口
提出日	令和 4 年 5 月 10 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 認知症高齢者等の支援 ☒ 自立支援・介護予防・健康づくり等 ☐ その他 ()
活動テーマ	コロナ禍の高齢者の実態把握を行い、フレイル予防の啓発活動を行う
地域ケア会議から 見えてきた課題	・コロナ禍において外出機会の減少や閉じこもりの増加によるフレイルや認知機能の低下がある。 ・対面での活動が制限され、活動の場や見守り活動が制限された。 ・コロナ禍における介護予防や高齢者の社会活動について周知・啓発が必要である。
対象	圏域内地域住民
地域特性	・担当圏域が梅田周辺で高層マンション、商業エリア、古い町並みが混在し多種多様な方がいる。北区人口の9割がマンション等での生活となっており、高経年のマンション等では高齢化が進んでいる。 ・圏域により高齢者の予防意識に違いがある。梅田東・済美・堂島地域では百歳体操等の参加者も多いが、北天満地域では少なく、曽根崎地域は高齢者人口が少なく地域活動自体が少ない。またコロナ禍においては地域の集会所の広さによって、各種地域活動の実施状況に格差が生じている。
活動目標	コロナ禍の高齢者の見守り方や実態把握を工夫して行い、必要なフレイル予防に関する啓発活動を行う。
活動内容 (具体的取組み)	第4回緊急事態宣言下の高齢者の見守り取組 対象：百歳体操参加者、総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）が見守りをしていたひとり暮らし高齢者もしくは高齢者世帯 21人 内容：ワクチン接種が進んだものの第4回緊急事態宣言が発令され、百歳体操等の通いの場が休止し、高齢者は居宅で長い時間過ごしていると想定されたため、安否確認と生活状況把握のため電話と訪問による見守り取組を行った。聞き取り内容は「見守り確認表」を作成し記録、分析を行い個別相談の対応とフレイル予防のチラシ作成や講演会などを実施した。 結果： ○年令 71～80歳：6人 81～90歳：13人 91歳以上：1人 未確認：1人 ○性別 男性3人 女性18人 ○世帯 ひとり暮らし：11人 高齢者のみ：4人 家族と同居：6人 ○ワクチン接種 2回接種：19人 1回接種：1人 未接種：1人 ○かかりつけ医（医科）あり：21人 なし：0人 ○かかりつけ歯科 あり：14人 通院中断3人 なし：7人 通院中断・なしの方のコメント ・歯医者さんの待合室が密で、新型コロナウイルス感染症感染拡大以降怖くて行っていない ・口を空けるので新型コロナウイルス感染症感染拡大が怖くて1年くらい行っていない。行ってもいいの不安。 ・1年前に北区に引っ越して来て以来、未受診 ・昔、入歯を作った以降は未受診。合わないけど時々入歯を入れる。 ・10年前に入歯を作った以降、今でも使っているから未受診 ・右奥歯が3本抜けているけど、反対で噛めているので2年半は未受診 ○口腔機能について（複数回答） 半年前と比べて噛む力が弱くなったと感じる：3人 部分入歯あり：11人 総入れ歯あり：3人 お口の中がよく乾く：5人 舌が回りにくくなった（話しづらくなった）：0人 むせる：6人 ○ワクチン接種後（もしくは昨年度と比較して）の外出機会 増えた：1人 変わらない：18人 減った：2人 ○外出内容（複数回答） 買い物：16人 散歩：11人 親族・友人と交流：0人 通院：17人 銀行・郵便局：11人 百歳体操：0人 その他：11人 その他内容 仕事：2人 ゲートボール：1人 デイケア：2人 教会：1人 ラジオ体操：1人 など

	○ワクチン接種後（もしくは昨年度と比較して）の運動機会 増えた：1人 変わらない：18人 減った：2人 ○運動内容（複数回答） 買い物が運動：9人 散歩：12人 自宅で体操：4人 仕事で運動：2人 その他：9人 その他内容 ゲートボール：1人 デイケア：2人 自転車で走る：1人 家事で運動：1人 自宅で階段昇降：1人 ○生活上の困りごと（物忘れ等） あり：11人 なし：10人 ありの内容 ・間違える事が増えた：3人 物忘れが増えた：2人 記憶力低下：1人 運動不足による足腰不調：2人 ・体力低下：1人 頭痛：1人 家賃支払い遅延：1人 ■対応1：物忘れが増えた1名に対して、ケアマネジャー選定・区分変更・デイケア導入 ■対応2：家賃支払い遅延1名に対して、よりそいサポート北へ相談 ○介護認定 未申請：11人 要支援1：6人 要支援2：2人 要介護1：1人 ○ケアマネジャー・介護サービスの有無 あり：3人 なし：18人 ○緊急連絡先の有無 あり：20人 なし：1人
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	見守り取組の分析と成果： 相談が必要な2件について個別に対応を行った。 ワクチン接種後も高齢者は自粛生活を続けており、外出機会は必要最小限で、運動機会は「買い物が運動」「散歩」という声が多かった。そのため済生会中津病院理学療法士と協働で「歩き方のポイント」チラシを作成し以下へ配布した。 口腔機能に関する回答では「むせる」「お口の中がよく乾く」「嚥む力が弱くなった」と答える方が見られた。かかりつけ歯科に関する回答では「コロナが怖くて中断」「入歯を作って以降は未受診」等、医科には通院するが、歯科は中断もしくは未受診である実態がわかった。 そこで訪問歯科のミナミ歯科クリニックと相談し「オーラルフレイル予防」のチラシを作成し以下に配布した。 【配布先】 ・高齢者へ個別送付 15人 ・済美地区高齢者7・8・9月誕生会 20部 ・堂島会館ものづくりの会 20部 ・曽根崎コミュニティーセンター 15部 ・大阪中崎郵便局 外壁に掲示 ・済美民生委員協議会 30部 ・梅田東いきいき百歳体操サポーター 30部 ・北天満食事サービス 30部 ・ローレルタワー梅田管理人 20部 ・マンション管理人室へ随時配布 オーラルフレイル予防講演会開催 2回 ・令和3年11月17日 場所：堂島会館 対象者：堂島・中之島地域住民 講師：医療法人健志会グループ ミナミ歯科クリニック 歯科医師 小田英人 参加者：10人 ・令和4年3月30日 場所：済美中崎町ホール 対象者：済美地域住民 講師：医療法人健志会グループ ミナミ歯科クリニック 歯科衛生士 余川ゆき 参加者：21人
今後の課題	今年度は感染症対策を講じた上で、様々な地域活動が再開される見込みである。再開される地域活動には積極的に参加し、高齢者の実態把握に努め、問題の早期発見・早期介入に努める必要がある。 また各地域での講演会については他の専門職の協力を得て、フレイル予防を意識した内容を企画し、高齢者がコロナ禍でも健康維持できるよう啓発活動を継続する。
以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 4年 7月 19日（火）
専門性等の該当 （該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☐ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント	緊急事態宣言下での高齢者の見守り取組みとし、地域で関わりのある高齢者に対し実態調査を実施。結果の分析に基づきフレイル予防のチラシを作成し、各地域や郵便局への配布を行っており、地域性・継続性・浸透性のある取組となっている。また、法人の強みも生かし、法人内外の医療関係者と協働でフレイル予防の取組みを行っており、独自性のある活動であると評価できる。 今後は、実態調査においては、より多くの高齢者を対象者とし地域の実態を把握できることが望ましく、幅広くフレイル予防の啓発活動が行えることを期待する。
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	

課題対応取組み報告書

名称	北区豊崎地域総合相談窓口
提出日	令和 4 年 5 月 27 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☒	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（		
活動テーマ	地域のつながり再構築			
地域ケア会議から 見えてきた課題	新型コロナウイルス感染症流行の影響により、感染症予防の観点から外出を控えるといったことが起きていた。フレイル（虚弱）が心配される課題も多かった。地域活動については地域特性上、元々組織化に課題があったが、中止や延期が相次いだことから、再開する際にも感染拡大の心配や習慣の喪失といった理由により、以前の活動に戻ることが難しかった。地域活動の停滞から、地域から「心配な高齢者」についての情報が寄せられにくくなった。			
対象	本庄・豊崎地域の高齢者			
地域特性	本庄・豊崎両地域において流動人口が増加している。高齢化率自体は低くなっていても、高齢者人口は増えている。住民の9割がマンションに居住している。新たに大規模マンションも建設されており、住民の転入・転出も活発になっている。その為、地域のネットワークが分散しており、地域とのつながりが少ない高齢者も存在している。			
活動目標	高齢者自身のフレイル予防の意識を高め、地域への関心を高めてもらい、地域活動の再開を支援する。			
活動内容 (具体的取組み)	新型コロナウイルス感染症流行期は、自宅でも高齢者が運動に取り組めるように、運動の内容を選定した。デイサービス職員が実際に運動のやり方を説明している動画を撮影し、インターネットの動画配信サイトに登録した。その周知の為、チラシを作成し、大淀老人福祉センターや豊崎会館や本庄会館に掲示するとともに持ち帰り用に置かせていただいた。 新型コロナウイルス感染症収束期は、UR都市機構のマンション自治会において、中断していた百歳体操の再開を支援した。その場を借りて、前述した「自宅で取り組める運動」や「地域のつながりによる認知症予防」などの告知といった周知活動を行った。 本庄会館では、11月に地域コーディネーターと地域課題についての会議を開催し、地域住民により近い形で相談できる場を作ることになった。そこで月ごとに開催されていたふれあい喫茶の再開に併せ、地域の相談会を開催することが決まった。開催に併せ、周知のチラシを作成し地域の会館に貼り出したり、大規模マンションにポスティングを行った。また新しい試みとして、朝の登校児童の見守り隊に参加し、散歩している高齢者や出勤途中の住民に対して声掛けや相談会の案内を行った。			
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	「自宅で取り組める運動」について、いただいたご意見を参考にして、修正を加えつつ高齢者のフレイル予防に取り組んだ。インターネットの動画配信サイトへ登録し、対象サイトのURLをQRコードにした。また、チラシ自体に運動のやり方を説明するようにした。「同じ運動ばかりだと飽きる」という声も出た。そこで鍛える体の部位を変えるようにして、月替わりで新しい運動を紹介するよう6種類のチラシを作成し配布を行った。令和4年5月末段階で、合計約6100回の再生となっている。 UR都市機構のマンションの百歳体操については、令和3年10月より再開した。感染予防の観点から、広く告知することはず、一部の住民に対しての開催となった。 本庄地域相談会は、ふれあい喫茶と併せて、令和3年12月と1月に開催された。過去に支援していたが本人都合で支援が中断していた方や、「今は必要ないが今後に向けて介護保険について教えてほしい」と新規相談の方、といった方達が相談に来られた。 朝の見守り隊への参加では、散歩していた高齢者や同居している高齢者を介護している家族に対して、相談会の告知を行った。また見守り隊の方達にも相談会への告知を行い、心配な様子的高齢者に対してもチラシを渡してもらおうよう依頼したい。			
今後の課題	高齢者に自宅でも運動してもらう動機付けを行ってきたが、継続していく為に、運動の種類を増やすと同時に集まって運動してもらう機会を増やす必要がある。 UR都市機構のマンションの百歳体操については今後も継続していけるよう支援していく。また組織化を拡充していく取組みが重要となる。 本庄地域の相談会については、今年度より土曜開催となり、多くの住民がより参加しやすくなった。定期開催することで、地域の高齢者が相談しやすい場所を作り、地域の資源として周知を進めていきたい。また本庄地域での活動を豊崎地域での活動に広げていきたい。			

以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 4年 7月 19日 （火）
専門性等の該当 （ 該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☐ 継続性 ☒ 浸透性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	コロナ禍において高齢者のニーズに応じ、月替わりで新しい運動の紹介をインターネット配信のQRコードを付けて配布。また、ふれあい喫茶の再開に併せた相談会の開催や、通勤・通学の時間帯を目掛けて登校児童の見守り隊に参加し、介護家族世代や散歩中の高齢者に対しチラシ配りや声掛けを行う等、様々な取組みを実施し新規相談にもつながっており、地域性・浸透性・専門性・独自性のある活動と評価できる。 今後もこれらの活動について、開催地域を広げることや、頻度や内容を工夫しながら継続して取組めるよう期待する。

課題対応取組み報告書

名称	西区花乃井総合相談窓口
提出日	令和 4 年 6 月 23 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☒ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	コロナ禍における活動の再開	
地域ケア会議から 見えてきた課題	マンションが多いことにより住民同士のつながりが形成されにくく、特に高齢者は孤立しやすい状況にある。また、周囲の目が行き届きにくいことから異変に気づくまでに時間がかかり、課題の早期発見が困難となっている。加えて、コロナ禍における地域の催しの中止や自粛生活の長期化により、これまであった地域とのつながりも減少している。	
対象	江戸堀地域、広教地域に在住の高齢者	
地域特性	大阪市内では高齢化率が最も低い区であるが、近年、西区に転入する高齢者が増加傾向にある。高齢者人口の増加やマンションが多いことにより、住民同士のつながりが形成されにくく、高齢者が孤立しやすい状況にある。	
活動目標	開催形態を工夫し活動を再開する 活動を通じて地域住民と交流する機会をつくり、課題の早期発見につなげる	
活動内容 (具体的取組み)	併設する特別養護老人ホームの面会制限により、総合相談窓口 (ブランチ) が主体となり実施していた活動 (百歳体操、地域喫茶) の中止が続いていた。地域からは、自粛生活の長期化による不安や孤独感から、活動の再開を希望する声があがっていた。このことを受け、昨年度に引き続き、感染状況に留意しながら活動を行うとともに、活動の定期開催を目指すこととした。併せて、今後、感染症拡大等により集まることができない状況でも活動が継続できるよう、オンラインを取り入れ実施した。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	状況に応じて開催形態を工夫したことや、新たなツールとしてオンラインを取り入れたことで、コロナ禍においても活動を再開することができた。	
今後の課題	活動は再開したが、現在の開催形態では支援者が主導となりやすい。今後、地域住民が主体的に運営できる体制を目指す必要がある。また、オンラインの活用については、SNSに馴染みのない高齢者や、利用に不安を感じる高齢者がいるため、安心して利用していただける工夫が必要である。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4年7月14日(木)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性 ☐ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	・オンラインの活用をしているということだが、友達登録が32人あり、その活動は独自性がある取組みであると評価できる。 ・元々開催していた場所で地域喫茶等が開催できないが、持ち帰る方法を取り入れることで継続的な取組みを実施していることは評価できる。また、地域住民の声を聞きニーズを分析し、マンションが多い地域性を活かして活動形態を工夫、創設しながら行っている。 ・今後は地域住民が主体的に運営できる体制を考えていってほしい。	

課題対応取組み報告書

名称	港区港南地域総合相談窓口				
提出日	令和	4	年	6	月 27 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	地域や専門機関同士が気軽に連携が取れる体制を構築し、要介護者の早期発見を目指す	
地域ケア会議から 見えてきた課題	世帯が複雑化した課題を多数抱えているケースの増加 ひとり暮らし高齢者の地域からの孤立や閉じこもり。地域との繋がり希薄化。（新型コロナウイルス感染症の影響もあり） 専門他機関や地域関係者と連携し、地域で見守りが出来る体制の構築。	
対象	経済困窮、家族に対する経済的依存、家族が精神疾患や発達障害を抱えている、非衛生的な環境などの方。 ひとり暮らし高齢者、男性高齢者、コロナ禍で外出を控えている高齢者。 見守りコーディネーター、ネットワーク委員、民生委員等地域関係者。地域包括支援センター（以下「包括」という）、総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）、認知症初期集中支援チーム（以下、「オレンジチーム」という）、見守り相談室、障がい者基幹型相談支援センター、区役所、くらしのサポートコーナー、三師会（医師会、歯科医師会、薬剤師会）、介護保険事業所、在宅医療・介護連携相談支援室、社会福祉協議会等。	
地域特性	【市岡】 比較的世界数の多いマンションや新しい戸建ての住宅が多い一方、昔ながらの戸建ても多い。港区の11校下の中では高齢化率は2番目に低く23%である。ファミリー層が多い地域であるが、住んでいる総数が多い為、高齢者数は多い。 【田中】 マンション、ワンルームなど集合住宅が多い一方で、昔ながらの戸建てや文化住宅も多い。ワンルームマンションはオートロックの所も多く地域関係者も住んでいる住人を把握出来ていないところもある。高齢化率は27%である。大阪市全体の高齢化率は25.1%。港区全体の高齢化率は27.2%であり市岡は港区全体の高齢化率より低く、田中はほぼ同じ比率である。令和3年度『港区つながりMAPより』)	
活動目標	・早期に発見し、支援者間で連携を取る事によりケースが困難化する事なくリスク回避を見越した介入が出来るよう、地域や専門他機関との関係づくりを大切にする。 ・地域との繋がりが持てる高齢者を増やし、孤立せず地域全体で見守りが出来る体制づくりの構築。	
活動内容 (具体的取組み)	・地域で開催されている、いきいきサロンや喫茶、配食サービス等に参加しその場での地域関係者との情報交換や相談対応、行事終了後の見守り訪問などを行う。また参加高齢者と直接の会話の中での状態の把握や相談対応を行う。 ・ネットワーク委員会の会議に参加し、港南ランチが高齢者の総合相談窓口である事の周知と顔の見える関係を構築する。またその場で支援や見守りが必要と思われる高齢者の情報を地域関係者から収集し相談対応を行う。 ・月に1度港区社会福祉協議会にて開催されている地域見守りコーディネーター連絡会に参加し、担当圏域内外のコーディネーターと連携体制の構築と情報交換に努め、さらなる関係の強化を行う。 ・各専門機関や区役所、社会福祉協議会、三師会、介護保険事業所等関係機関と連携し困難ケースの対応を行う。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・義理の親子が一緒に住んでいるが家庭内で会話が無く、経済的にも破綻している世帯のケースは包括、ケアマジャー、見守り相談室、くらしのサポートコーナー、住みサボ、ケースワーカー、弁護士、ランチで連携して支援を行い、それぞれが役割をきちんと分担する事により、自立支援、生活保護の受給、医療・介護サービスの利用、債務整理、障がい者手帳の取得等生活の安定に向けた支援が行えた。 ・認知症連絡会等、認知症施策を推進する会議や地域見守りコーディネーター連絡会、ネットワーク委員会の会議、その他区役所や社会福祉協議会で行われている会議に参加する事は、区役所、専門機関、地域関係等様々な機関とのネットワーク構築に繋がり、世帯が複雑化しているケースへの対応に役割分担し連携して支援を行う事に繋がった。	
今後の課題	・各地域の会館や老人福祉センターなどで行われているサロンや百歳体操、喫茶など参加時は感染防止に注意をした関わりを行う。また新型コロナウイルス感染症の影響を受け、閉じ込められておられた高齢者の方が認知症状の進行やADLの低下など身体状態が以前と変化していないかをよく確認した上で、必要な医療・介護サービスやインフォーマルサービスに適切に繋げられるよう支援を行う。 ・困難ケースが複雑化、多様化している為、引き続き各専門機関や三師会、区役所、社会福祉協議会等の関係機関との連携とネットワーク構築の強化に励む。	

以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4年7月15日（金）
専門性等の該当 （ 該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☐ 専門性 ☐ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	新型コロナウイルス感染症の影響で地域の集いが中止になっても機会をとらえて地域の会議やサロンなどにも、積極的に参加し地域との関係づくりに努められておられます。また、複合的な課題を抱えるケースに他支援機関と連携し日ごろ培った関係性を活かし支援されています。地域と連携した取組みを強化し、今後も地域に根ざした支援を実施していただくことを期待しています。

課題対応取組み報告書

名称	港区市岡東地域総合相談窓口
提出日	令和 4 年 6 月 27 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等)
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他 ()	
活動テーマ	複数の支援機関や地域関係者との協働支援	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・地域とのつながりや介護予防の取り組みにつながってあらず、問題が重度化してから相談になることがある。(認知症や精神障がいによる判断能力の低下、地域からの孤立、または高齢者自身が自分の状況を知られたくないと思っている) ・家族の支援力が低下している。(介護保険のサービスを利用していても家族にも経済的な課題や障がい疑われ、複合課題ケースとなっている)	
対象	地域で孤立している高齢者とその世帯 (特に認知症や精神障がいによる)	
地域特性	波除地域：(波除・市岡元町) 高齢化率は 22.2% 単身世帯は 1,186 世帯 市営住宅 (9 棟) は築 40 年近く経っており、高齢化が進んでいる。新しくマンションも建設されており、町会未加入者も増えている。 南市岡地域：(南市岡 1、2 丁目、3 丁目東町会地域) 高齢化率は 24.9% 単身世帯は 366 世帯 区内でも人口の少ない地域で、2 年前から 3 丁目東町会 (ターマンションがある) が同地区となった。	
活動目標	・すぐにサービス利用や医療機関につながらない高齢者の支援 ・認知症や精神疾患がある、もしくは疑われる方の相談が増えており、介護保険のサービスだけでなく他の制度の利用や専門機関との連携を図る	
活動内容 (具体的取組み)	・個々の状況に合わせて定期的に訪問や電話での連絡を続けている。 ・サービス利用や医療機関の受診の必要性を認識されていない方に対し、複数の機関 (地域包括支援センター、認知症初期集中支援チーム、港区社会福祉協議会等) や地域見守りコーディネーター等と情報共有をしておき、変化があった場合にすぐに対応できるような体制を構築した。 ・介護保険のサービス利用後も地域とのつながりが保てるように、地域の支援者と介護保険事業者の間で情報を伝達し、地域で安心して生活が続けられることを目指し支援した。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・普段から定期的に複数機関で見守り訪問をしておき、何かあった場合は地域住民や地域関係者から連絡をいただいて安否確認や医療機関の受診につなぐことができたケースがある。 ・認知症があり、介護保険のサービスを利用しているが日中一人になる方に対し、地域での見守りを依頼してその様子をケアマネジャーに報告したり、ひまわりじやんの申し込みにつなげるなど安全を確保する体制を整えた。 ・サービスにすぐにつながらなくても、ちょっとした要望に対し、他の制度の利用や地域活動、社会資源の情報、有償ボランティアの利用等を提案しながら少しずつ関係性を構築した。	
今後の課題	・依然コロナ禍での活動になるため制限されることが多い。他機関や地域で支援されている方々との連携強化がますます重要となっている。 ・同法人以外の介護保険事業者との連携強化。(多問題ケースや虐待ケースの早期発見につなげる)	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4年7月15日 (金)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☐ 専門性 ☐ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	地域で課題のある高齢者に対して、見守りコーディネーターや民生委員等関係機関と連携をとりながら、必要な支援を行う体制づくりに取組まれています。電話や訪問で孤立化を防ぎ見守り声掛けを続けてきた総合相談窓口 (ブランチ) の力がよくわかりました。こうした地道な関りや支援が関係性を途絶えず構築の基礎となると思います。今後も地域や関係機関と連携し課題解決に取り組んでいただくことを期待しています。	

課題対応取組み報告書

名称	港区築港地域総合相談窓口				
提出日	令和	4	年	6	月 24 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等)
	☒ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他 ()	
活動テーマ	コロナ禍が続く中でつながりを絶やさない、その人の暮らす場所へ見守りの目を届ける	
地域ケア会議から 見えてきた課題	圏域内は市営住宅や単身者向け賃貸住宅が多く、ひとり暮らし高齢者の占める割合が高い。ひとり暮らしであるため キーパーソンが疎遠や不在で、その場合に介入まで時間がかかることが多かった。また、コロナ禍で地域活動が休止して 家に閉じこもることを余儀なくされて他者との関係が希薄化。急に体調が悪化した、といった相談が多かった。いきいきサ ロンや配食サービスなどを通じて安否確認を行っていたが、感染を恐れて自宅訪問を断られる方は昨年同様にいた。さ らに家族がコロナ禍で失業やテレワークなど在宅時間が長くなり、家族間の摩擦やストレスから関係が悪化して相談に 至るケースもあった。	
対象	圏域内の住民	
地域特性	高層を含めた市営住宅が多く、高齢化率が30%前後と港区の中でも高い水準にある。 ネットワーク委員会、民生委員協議会の活動が活発で地域見守りコーディネーターとの繋がりも強い。 65歳以上の人口に対する単身世帯の割合 港晴42.6% 築港41.8% [出典：令和3年10月 大阪市福祉局地域包括ケア推進課資料より]	
活動目標	地域関係者や専門機関との連携を深め協働して支援する体制を構築する。 認知症の疑いや進行が見受けられる高齢者の早期発見、早期対応。	
活動内容 (具体的取組み)	令和3年度はラジオ体操、いきいき百歳体操、ふれあい喫茶、食事サービスや各種サロン活動の中止が続く中、地域 高齢者への個別訪問、ポスティングを重点的に行い個別相談、総合相談窓口 (プランチ) (以下「プラランチ」という) 周知に努めた。退院後の支援や病院受診を円滑に勤めるため、在宅医療・介護連携相談支援室との情報の共有を 心がけた。支援困難ケースに対しては相談初期から地域包括支援センター (以下「包括」という) や認知症初期集中 支援チーム (以下「オレンジチーム」という) 等と連携し協働して支援にあたった。 築港プラランチ独自の取り組みとして出張無料相談会を行っていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点か ら、令和3年度は2回の開催のみだった。	
成果 (根拠となる資料等が あれば添付すること)	ネットワーク委員、見守りコーディネーター、民生委員、港区社会福祉協議会見守り相談室、港区くらしのサポートコー ナー、消防署、包括、オレンジチーム等と連携して圏域内の町会未加入の集合住宅に計画的にポスティングを行った。 その結果、各機関へ相談があった。 包括と連携して家族介護支援事業にて地域住民向けにZOOMの使い方講座を開催できた。講座開催によって地域 住民向けオンライン講演会への参加も促せた。	
今後の課題	ポスティングは令和3年度も一定の成果があったが、大規模に行おうとすると回数が限られ、対象者が支援を必要とす るタイミングとずれる恐れがある。 声をあげられない方に対するアウトリーチ手法について、引き続き感染症対策に取り組みながら考えて実行していきた い。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4年7月15日(金)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☐ 専門性 ☐ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	コロナ禍でも行える周知活動として地域と連携し、ポスティングをされ、相談につながるなど成果をあげておられます。地 域アセスメントのもとに地域支援者とともに単身者が多く住むマンションにターゲットに絞ってポスティングを行われたことは独 自に工夫し活動されていると思います。 高齢者の多い地域で、地域に貢献されています。難しく大変な地域と思うが、今後も引き続きアウトリーチ活動を期待 しています。	

課題対応取組み報告書

名称	浪速区日本橋地域総合相談窓口			
提出日	令和 4 年	7 月	8 日	

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	総合相談窓口の周知・啓発活動の拡充、地域のつながり強化	
地域ケア会議から 見えてきた課題	恵美・新世界地域においては、低家賃・単身者向けの住宅が多くあり、生活保護受給者や低年金者、ひとり暮らし高齢世帯の割合が高く、住民同士の交流も少ないため、認知症や病気、困り事に気づいてもらう事が難しく、又、自ら訴える事も少ない。 日東、日本橋地域については、高齢世帯・ひとり暮らし世帯が多く、地域の関係が希薄化しつつある。	
対象	恵美・新世界・日本橋・日東	
地域特性	・日東地域は、市営住宅が多くあり、高齢世帯が多く、地域の繋がりが途切れやすくなっている。 ・日本橋地域は、高齢世帯・ひとり暮らし世帯が多く、地域の繋がりが希薄化しつつある。 ・恵美・新世界地域は流入者が生活しやすいワンルームマンションが多く、地域とのつながりが希薄な為、生活状況の情報収集が難しい。ひとり暮らし男性が多く、孤立しやすく、困った時に頼るすべを持たない。	
活動目標	支援が必要となる前の段階の人への周知を図る事で、課題の早期発見・早期対応に努める。	
活動内容 (具体的取組み)	1 高齢者に関係する機関へ、相談窓口の周知活動を継続して行う事により、気軽に相談出来る関係を構築する。 2 地域福祉サポーターと定期的に地域の訪問活動をする事で小さな変化を見逃さず、問題の早期発見・早期対応につなげる。 3 老人福祉センターの終活講座や夏祭り等の協働。 4 生活支援課新任ケースワーカーへ的高齢者の相談窓口の周知を行う。 5 新世界地域において毎月1回百歳体操後に脳トレ体操を実施する事で地域のつながり強化に努める。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	1、2については、地域関係者や地域福祉サポーターから継続して相談がある (上期 : 64件、下期 : 57件)。 2については、定期的な訪問活動を実施する事により、生活状況の変化に気づく事が出来た為、医療や介護保険サービスに繋がった。 3については、老人福祉センターと協働する事で相談窓口の周知が図れた。 4については、生活支援課からの相談が増えた。 (生活支援課との連携実人員は13名) 5については、コロナ禍でもあり、年間6回開催し、新世界地域においては、参加者同士、総合相談窓口 (ブランチ) (以下「ブランチ」という) や地域福祉サポーターとのつながりも強化できた。何かあれば、地域の高齢者や地域福祉サポーターからブランチに連絡が入る。	
今後の課題	地域福祉サポーターとの見守り訪問活動が、恵美地域、新世界地域においては、ほぼ毎月定期的に実施しているが、日東、日本橋地域においては、随時であり、継続した活動とはなっていないため、定期的な活動として、百歳体操や食事サービス、ふれあい喫茶への参加を定期的に行い、小さな変化を見逃さないようにする事が必要。 生活保護受給者が困ってから相談が多く、小さな変化が起こった時点で協働出来るように連携強化が必要。	

以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4年7月22日 (金)			
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	☒ 地域性	☒ 継続性	☒ 浸透性	☐ 専門性 ☐ 独自性
評価できる項目 (特性) についてのコメント	・地域特性がある地域の中で積極的に活動されていると思います。 ・毎月、定期的に支援拒否されている方への訪問や地域福祉サポーター、町会等の方との連携ができていることが成果につながっていると思います。 ・今後の課題として、小さな変化を見逃さないように、協働できるように連携強化が必要という視点は非常に大事であると思います。			

* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。

課題対応取組み報告書

名称	浪速区難波地域総合相談窓口
提出日	令和 4 年 7 月 6 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等)
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他 ()	
活動テーマ	支援が必要となる人への前の段階への周知	
地域ケア会議から 見えてきた課題	早期介入できず問題が深刻化してからの相談や、必要なサービスにつながらないケースがある。総合相談窓口の周知を行ってはいるが、実際に相談が必要な状況にならないと関心を持ってもらえない現状がある。	
対象	圏域内地域住民	
地域特性	長年住まれている高齢者は地域住民とのつながりが強いがその反面高層マンション等集合住宅も増え、他地域からの転入者も多く、つながりが希薄な住民もいる。	
活動目標	1 地域高齢者が集う場に出向き、総合相談窓口の周知を行う 2 他機関と連携を図ることで総合相談窓口の周知を図り他機関への相談や支援が必要な場合にスムーズに連携を図れるようにする 3 集合住宅の管理人等に総合相談窓口の周知をすることで気になる高齢者の早期発見を行う	
活動内容 (具体的取組み)	1 継続的に地域活動へ参加し、パンフレットや包括・ランチニュースを年3回発行し、周知を図る。地域高齢者だけでなく、参加している町会関係者やボランティアに対しても総合相談窓口の役割を説明し高齢者の見守りのポイントについても説明する。 2 6月に新人ケースワーカーと情報共有の場を持ち総合相談窓口の周知を行う。また、6月に地域福祉サポーター研修会へ参加し、総合相談窓口の周知を改めて行っている。包括・ランチニュース発行に合わせ地区民生委員児童委員協議会にも参加し、地域高齢者の情報共有を行っている。老人福祉センターで開催された介護健康相談、11月開催の終活講座にも参加し、総合相談窓口の周知を行っている。11月、地域見守り会議に参加し、幸町地域の地域高齢者の現状について地域関係者と情報共有を行った。また、町会関係者から依頼があった際、戸別訪問を行い、総合相談窓口の周知を図り、見守りネットワークの強化を図った。 3 高齢者住民が多い住宅の管理人へ定期的に訪問することを継続し、新たに集合住宅を訪問した際には管理人へ総合相談窓口を周知しパンフレットの掲示依頼等を行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・継続的に地域活動の参加を行うことで、地域高齢者との顔の見える関係づくりが行えた。パンフレットの配布や総合相談窓口の役割の説明を行うことで地域関係者や集合住宅の管理人等へもより身近な総合相談窓口として総合相談窓口 (ランチ) の周知を図れた。 ・町会関係者や民生委員から気になる高齢者を教えていただくことも増え、戸別訪問を行い実態把握をし、要援護者名簿の登録を行ったりすることで、より地域関係者と高齢者に繋がりを持っていただけるよう取り組めた。また、介護保険サービス利用者は介護支援専門員とも連携を図りながら対応し、高齢者の見守りの強化等を図れた。	
今後の課題	戸別訪問をしている中で、同居家族も高齢や障がいを持っていたり、経済的困窮であったりと複合的な課題を持っている方もみられた。 継続的に総合相談窓口の周知を行いながら、障害者基幹相談支援センターや区役所生活支援課との連携の強化を図る必要がある。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4年7月22日 (金)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☐ 専門性 ☐ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	・地域と密に接している感じがよく分かりました。 ・気になる高齢者を教えていただくことが増えたということは、それだけ総合相談窓口 (ランチ) を認知していただいている成果であると思います。 ・地域とのつながりが希薄な中、継続的に周知活動をよくされていると感じます。	

課題対応取組み報告書

名称	生野区生野東地域総合相談窓口
提出日	令和 4 年 6 月 30 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	・地域の実態把握とランチの周知活動 ・認知症に対する理解と、認知症予防に対する取り組み	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・認知症高齢者の支援には、地域との連携やネットワークが必要。 ・地域課題解決の為に、地域関係者と密に連携を図ることが重要。	
対象	圏域内の認知症高齢者やその家族、地域関係者やボランティア、地域住民、その他支援関係機関	
地域特性	生野区内でも特に高齢化率が高い地域。文化住宅や商店街、銭湯など昔ながらの街並みが残っている。一方、新たな住宅も混在。活動や行事等は盛んで、隣近所の交流も残っている。	
活動目標	・地域包括支援センター (以下「包括」という) ・総合相談窓口 (ランチ) (以下「ランチ」という) の機能の周知および情報提供をする。 ・支援が必要な高齢者の早期発見・早期対応に努める。 ・認知症に対する理解を深める。	
活動内容 (具体的取組み)	・生野・西生野連合での戸別訪問の実施 包括との共催にて、福祉コーディネーター、民生委員と協働し、戸別訪問を実施。 生野連合 (約180世帯) ・西生野連合 (約200世帯) ・認知症カフェ「オレンジカフェつなごう」の開催 コロナ禍で中止せざるを得ない月が生じたが、年間予定が6回のうち4回開催した。中止した月には参加者宅を訪問するなど活動した。 ・生野東ランチだより「つなごう」の活用 (別紙参照) 当ランチの周知・広報を目的とした広報誌を発行 (年4回) 。興味を持てる様な内容を盛り込んだ。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・生野・西生野連合での戸別訪問の実施 福祉コーディネーターや民生委員と協働し、その結果をフィードバック・情報共有する事で、実態把握と課題抽出する事ができた。また包括・ランチを有効的に周知する事ができ、相談に繋がった。 ・認知症カフェ「オレンジカフェつなごう」の開催 当事者やその家族、地域住民などの参加があり、認知症関連の講習や予防の為に脳トレ、運動などの内容を組み込み開催し、認知症の理解を深めた。中止月には参加者宅を訪問し、状況確認・相談を行った。訪問する事で、来所時とは違った視点で見ることができ、より関係を深める事ができた。 ・生野東ランチだより「つなごう」を活用した周知活動 昨年度に比べて配布機会は少なかったが、圏域内の老人憩いの家や医院、薬局などへ配架し、多数の方の目に触れる機会を増やす事ができた。	
今後の課題	・地域関係者や民生委員等との関係を深め、地域の実態把握に努める。 ・必要時には迅速・柔軟に対応できるよう連携を図る。 ・引き続き、総合相談窓口の周知・啓発活動を行う。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 4 年 7 月 29 日 (金)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、 区地域包括支援センター運営 協議会からの意見等を記載。	連携しなければならない機関を意識しながら支援し、記録している。 相談員とケアマネジャーの違いを明確にし、わかりやすく丁寧に記録を整理している。 熱中症訪問等、包括・ランチ・地域で連携し、よく住民宅への家庭訪問に出向いている。 地域からの相談が多く、'普段と違う様子'に気づくことにより問題を把握している。	

課題対応取組み報告書

名称	生野区大池地域総合相談窓口
提出日	令和 4 年 7 月 4 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	コロナ禍での地域住民の孤立化を防ぐ	
地域ケア会議から 見えてきた課題	ひとり暮らし世帯や地域との関係が希薄な世帯については、詐欺被害にあう確率が高かったり、気分が落ち込んだりする方もいる。コロナ禍にあって、外出の機会が減少すれば、健康面への影響も考える必要がある。それだけでなく、孤立死や孤独死の可能性も高まると思われる。地域住民が孤立してマイナスの影響を被らないような取り組みを行っていく。	
対象	地域の高齢者 (特にひとり暮らし世帯)	
地域特性	昔ながらの木造住宅が密集しているエリアがあり、長年住んでおられる方が多い。家内工業が現存する地域であり高齢化が進んでいる。	
活動目標	コロナ禍で地域活動が中止になっても地域住民の方々と接点をもっていく。 地域住民がどんなことでも相談できる「顔の見える関係」を構築していく。	
活動内容 (具体的取組み)	・熱中症予防啓発訪問を町会の役員、区社会福祉協議会、鶴橋地域包括支援センター、福祉コーディネーターと協力して実施した。同時に相談窓口としての総合相談窓口 (ブランチ) (以下「ブランチ」という) の周知活動を行った。 ・地域の状況把握の為、町会が実施しているお弁当の配食に同行したり、中川・御幸森地域での百歳体操に参加し、「顔の見える関係」構築に努めた。また、御幸森での百歳体操については、コロナ禍にあってでも休止しなかった為、参加したいと考えている住民が参加することができた。 ・御幸森地域での新たな取り組みとして「御幸森茶話会」を開催し、地域住民が集える場所づくりを行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	地域の女性部長から、百歳体操に参加経験があり、地域活動への参加が減っている方 (ひとり暮らし) の相談があった。 地域の会館でご本人から話を聞くと、認知症の疑いがあるとわかった。権利擁護の必要があると判断し、認知症の専門医がいる病院を受診したうえで、保佐の申立てを行う事が出来た。またコロナの影響があり、地域活動への参加は消極的であったが、ご自分のペースで地域活動に参加するようになった。	
今後の課題	地域活動に参加する中で、孤立化を防ぐことが詐欺被害を防止するための有効な手段と考えていたが、詐欺被害の件数を見る限りでは、取り組みが不十分な所もあったと思う。より一層の注意喚起ができる場 (ブランチの周知活動、まちかど相談室など) を確保していきたい。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 4 年 7 月 29 日 (金)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、 区地域包括支援センター運営 協議会からの意見等を記載。	圏域内の包括とのきめ細やかな連携ができています。 相談者や地域の方々に寄り添った丁寧な対応をしている。また、対応が終了した後も、必ず訪問し、その後のフォローをして困りごとがないかや、対応の振り返りをしている。	

課題対応取組み報告書

名称

生野区田島地域総合相談窓口

カテゴリー	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☒ 認知症高齢者等の支援	☒ 自立支援・介護予防・健康づくり
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	コロナ禍においても早期相談できる関係づくりの継続	
地域ケア会議から 見えてきた課題	○コロナ禍により、地域行事や食事が開催できず、また高齢者自身も外出や人との交流を少なくしている。心身の機能の低下によって相談に繋がるケースが増加。	
対象	地域住民	
地域特性	○65歳以上の高齢者数3754人、高齢化率35.9%、外国籍(特に韓国・朝鮮籍)の方が多い。 ○田島地域は、古いまちなみが残る地域で、メガネレンズ産業が盛んで現在も家内工業が多数存在する。	
活動目標	○コロナ禍においても 地域高齢者が早期相談できるよう、積極的に地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）の周知・啓発を行い、相談のしやすい関係づくりを継続して行う。	
活動内容 （具体的取組み）	出張版やすらぎカフェ（7月から8月） 令和2年度に常連で来られていた方15名へ 認知症カフェの案内・ぶらんちだより・脳トレ等のポスティング・声掛け 市営住宅への訪問相談（3月） 市営住宅での介護予防教室に参加されていた方、市営住宅の役員から気になる方20名へ まずは相談・ぶらんちだより・還付金詐欺防止チラシ・私のメッセージを提供、声掛け、相談	
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	新型コロナウイルス感染症が少し落ち着いた時期に自宅訪問し、対面でのお渡しを行い、久しぶりに顔を見る事が出来た方も多いた。生活の状況を聞き取ることができ、いくみんお守りキーホルダーの申し込みや近所の気になる方の相談につながった。	
今後の課題	○年に各1回のみの訪問になったので、回数を増やしたい。ランチだけで訪問になったが、地域の役員や民生委員などとも連携し、戸別訪問を継続していく。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4年7月29日（金）	
専門性等の該当 （該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性（拡張性） ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント	担当者の変更があったが、切れ目なく支援が継続出来ている。住民組織関係者として、女性部長や民生委員等に参加をしてもらい、地域の方を巻き込んで活動している。地域行事・活動にも積極的に参加し、顔の見える関係作りを行うことで、地域の問題に素早く取り組んでいる。 *今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見	

課題対応取組み報告書

名称	生野区新生野地域総合相談窓口		
提出日	令和 4 年	7 月	7 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☒ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	相談内容件数が多い認知症への取り組み 高齢者への認知症予防対策 地域住民 (若い夫婦世代・児童含む) に対する、認知症啓発	
地域ケア会議から 見えてきた課題	ひとり暮らし認知症高齢者への、周辺住民の認知症に対する理解不足。 地域役員含む周辺住民への啓発が必要。	
対象	地域在住高齢者及び住民・地域振興会・民生委員	
地域特性	文化住宅や長屋がなくなり建売やマンションなどが増え、町並みが変化してきている。若い世代の流入による、児童が増加傾向にある。 マンションなどの居住者は町会に加入しない事が多く地域の見守りや情報提供が難しくなっている。	
活動目標	高齢者から子供に至るまで、全ての世代への「認知症」啓発	
活動内容 (具体的取組み)	・自己紹介を兼ねたランチ啓発チラシポスティング ・地域行事への参加 (にこにこ教室・はーとちゃん教室) 総合相談窓口 (ランチ) の啓発、認知症予防や虐待・詐欺対策などの情報提供実施。 ・異東連合との連携強化 ・異地域包括支援センター (以下「包括」という) との連携強化 ・まちづくりセンタースタッフや社協福祉コーディネーター、 見守り相談室スタッフを巻き込んだ地域での段ボール等の資源回収の協力 ・地域行事参加者宅への複数回の戸別訪問 ・町会未加入のマンションなどへの認知症予防及び総合相談窓口啓発 ランチ広報「ゆったり通信」を制作し相談窓口情報を発信	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・相談件数：前年度比105% ・異包括との関わり件数：前年対比180% ・異東会館での滞在時間：平均2時間/日 捻出 ・100歳体操及び地域行事の新規参加者の増加。 ・チラシによる町会未加入者からの問い合わせ：5件 ・家族介護教室：7/8実施 異東高齢者及び異東住民 13名参加 12/2実施 異東高齢者及び異東住民 32名参加	
今後の課題	・認知症への理解を深め早期発見、早期対応や地域で見守れる街づくり。 ・若年世帯 (別居世帯) への認知症早期発見、相談窓口の情報提供。 ・コロナ禍での活動内容。	

以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 4 年 7 月 29 日 (金)
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、 区地域包括支援センター運営 協議会からの意見等を記載。	周知活動のために顔写真入りの広報誌を発行され、町内の掲示板にポスターを掲示するなどして積極的に活動している。また、徒歩での移動を多く行い、地域の方と話が出来る時間を多く持てるようにするなどの工夫をしている。年間を通して相談件数も多く、1つ1つのケースについてもしっかりと対応後にモニタリングもっており、丁寧に関わっている。長年の地域との付き合いから地域の方からも頼りにされており、認知度も高い。

課題対応取組み報告書

名称	生野区新異総合相談窓口
提出日	令和 4 年 7 月 1 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☒ 認知症高齢者等の支援 ☒ その他 (複合的な課題を持つ家族支援)	☒ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	複合的な課題をかかえる世帯への多面的な支援と他機関連携し地域資源を活用していく 地域の実態把握とランチの周知活動を行う	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・町会に未加入で身寄りもないひとり暮らし高齢者、医療にもつながっておらず、心身の状態が悪化し、問題が進行してからしかつながらないケースが増えてきた。 ・65才以上の高齢者だけの課題ではなく、多職種関係機関と連携を図り協働して支援しなければいけない複雑多様な世帯が増えてきた。	
対象	異南在住の高齢者、その家族、地域住民、民生児童委員、地域関係者やボランティア、各関係機関	
地域特性	地の人たちの村意識が強い。その反面、マンションや戸建てが増え、若い人の定住が増えた。ワンルームマンションも増え、町会に加入しないひとり暮らし高齢者が他地域から移住されてくる方も増えており、顔の見える関係性が薄くなっている。スーパーもなく、2月に異南にサンディのスーパーが1件やっと出来た。コンビニエンスストアも2軒しかない。銀行も農協が移転し、不便になっている。地下鉄やバスは通っているが、バスは1時間に1本しか走っておらず、役所に行くにも乗り換えてなければならない。オンデマンドバスも令和4年12月1日から開通したが、高齢者にはスマートフォンでの予約が出来ず、利用が困難である。	
活動目標	地域住民、各部会の方たいとの連携を重視し、地域包括支援センター（以下「包括」という）、総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）の周知活動を行い、気軽に色々なことを相談していただける顔の見える関係づくりの構築を図る。 行政、他の専門職機関、との連携を深め、協働して複合的な課題解決に務める。	
活動内容 (具体的取組み)	・民生児童委員、生野区社協（見守り相談室）、包括と高齢者世帯に、熱中症予防の戸別訪問を行い実態把握とランチの周知活動を行った。 ・地域行事（お花見サロン、朝市、クリスマスサロン、サンタ大作戦等）企画から参加する。介護予防教室に参加し、新型コロナウイルス感染予防のお手伝いをする。 ・いくみんお守りキーホルダー、高齢者福祉電話貸与、緊急通報システムの設置などの手続きのお手伝いする。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	民生児童委員、生野区社会福祉協議会（見守り相談室）、包括と高齢者世帯に、戸別訪問を行ったことで、地域の実態把握が出来、地域住民にもランチを知ってもらうことが出来、相談につながっている。 地域行事（お花見サロン、朝市、クリスマスサロン、サンタ大作戦等）企画から参加することで、地域役員、ゲストからもランチがなくてはならない存在になってきた。	
今後の課題	・高齢者だけではなく、その家族など、問題が複合化したケースが増えてきており、行政、他機関と連携を深め、協働して迅速に、問題解決に努めなければならない。 ・地域役員、民生児童委員、社会福祉協議会の見守り相談室との関係を深め地域の実態把握に務める。 ・引き続き、包括、ランチの周知、啓発活動を行う。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日 専門性等の該当 (該当個数は問わない)	令和4年7月29日（金） ☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント ＊今後の取組み継続に向けて、 区地域包括支援センター運営 協議会からの意見等を記載。	複合多問題事案が増加・重度化もみられるが、地域ケア会議・つながる場共催などに参加し、関係機関との連携が図れており、進んで問題解決に向けて対応を行っている。訪問回数が多く、どの事案も丁寧な対応をされ、各サービスの紹介やつなぎをしている。特に速やかな対応が多い。地域行事への参加が多く、住民にも喜ばれていると思われる。延べ件数においては、本人からの相談事案が多く、周知活動の効果によるものと思われる。地域に根差した活動をしており、ランチ施設も相談しやすい造りになっている。	

課題対応取組み報告書

名称	阿倍野区昭和地域総合相談窓口
提出日	令和 4 年 7 月 5 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等)
	☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他 ()
活動テーマ	早期発見・早期対応に向けた、幅広い世代に対する周知活動について
地域ケア会議から 見えてきた課題	○ ケースが重篤化して表出し対応すると、施設入所となるケースが多く、住み慣れた地域で暮らせるための支援が難しい ○ 早期に相談できるところや介護のノウハウを知らない、これから親の介護を担う世代が増えてきた ○ コロナ禍における地域の活動の場を増やすことや活動を再開することは難しく、近隣の支援を必要とする人にどこまで対応すればいいのかが難しい ○ 免許返納やごみ屋敷、老朽化した借家に住み続けるなどのレアなケースには、課題が多様化しているため、法律などの幅広い知識や情報発信が必要となっている
対象	地域住民、地域の支援関係者、各支援機関
地域特性	南北に長い地域で、北部は新しいマンションが多く、中部は古くからの住宅、南部は単身者向けのマンションや文化住宅が多い。地域によって経済格差が大きい。南北には地下鉄の駅が2つあり、JRの駅が地域の南東端に位置しているが、駅まで徒歩で移動が困難な高齢者が多く、公共交通機関の利便性が確保されていない。
活動目標	幅広い世代に総合相談窓口(ランチ)(以下「ランチ」という)の周知を行い、早期対応に繋げる 地域向けに生活や健康など幅広い情報を発信し、顔の見える関係作りを目指す
活動内容 (具体的取組み)	○ 地域包括支援センター (以下「包括」という)、地域福祉コーディネーターと共同で「長池ローラー作戦」を立ち上げた。制度や支援に繋がっていない要援護者の掘り起こしを行い、必要なタイミングで支援に結びつけ、重篤化を防ぐとともに、幅広い世代に地域住民にランチや包括の存在を理解してもらい、地域の見守りや気付きの目を増やす (= 相談窓口の結びつく機会を増やす) ことを目的とし、連合町会長を始め、各町会長や民生委員の協力を得ながら、長池地域全世帯を対象に包括・ランチの相談窓口紹介のチラシを一齐にポスティングを実施した。 ○ 包括、地域福祉コーディネーターと共同で「長池ふくしだより」を創刊した。年3～4回ペースで発行し、地域の回覧板や個別訪問等で配布。内容は介護や医療・福祉等に関する生活に役立つ情報や、各相談窓口の紹介と包括・ランチ・地域福祉コーディネーターの紹介ページ掲載し、情報発信と相談窓口の周知を行った。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	○ 「長池ローラー作戦」については、長池地域全体の延べ世帯数約6600世帯 (戸建て、マンション) に対し、包括、ランチ、地域福祉コーディネーター、見守り相談室、民生委員と役割分担をして、包括・ランチの相談窓口紹介のチラシを一齐にポスティングを行い、最終的には約4700世帯 (全体の約7割) にポスティングを行った。その後相談件数が大幅に増加したわけではないが、幅広い世代の方に相談窓口を知ってもらえきっかけとなり、相談窓口に結びつく機会を増やすということでは目的どおり実施できた。 ○ 「長池ふくしだより」を見ての相談が複数件あり、中には介護認定申請や介護サービスに繋がったケースもあり、またスタッフの写真を見て名前を覚えてもらったり、長池ふくしだよりを通じて顔の見える関係作りも構築できつつある。
今後の課題	○ 「長池ローラー作戦」については、次年度以降は制度や支援に繋がっていない要援護者の掘り起こしを目的に民生委員や見守り相談室等の支援関係機関と連携しながら、個別訪問を行っていく。またポスティング等の周知活動も引き続き行い、幅広い世代の地域住民に相談窓口を知ってもらい、相談窓口に結びつく機会を増やす。 ○ 「長池ふくしだより」についても、今後も年3～4回ペースを維持して発行し、様々な支援機関にも協力を得ながら地域住民に役に立つ情報を発信し、相談窓口の紹介等を通じて顔の見える関係作りを構築していく。

以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4年7月29日(金)
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性 ☐ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	・長池ローラー作戦は地域を巻き込んだ活動であり、その活動が実を結んでいる。コロナ禍であり、今年度計画している個別訪問はまだ難しい状況ではあるが、引き続き区包括と協働し、地域役員等や関係機関と連携しながら活動をすすめていきたい。 ・顔写真入りの情報紙の発行も効果的であり、顔の見える関係づくりをすすめていく一助となっている。

課題対応取組み報告書

名称	住之江区南港北総合相談窓口
----	---------------

カテゴリー	☒ 地域や専門職とのつながり等	☒ 社会資源の創設(居場所づくり等)
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり
	☐ その他()	☐
活動テーマ	権利擁護の知識向上を図る	
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域住民や専門職等への権利擁護の周知が不足している。	
対象	地域住民、介護支援専門員	
地域特性	ポータウンが完成してから約40年近く経過しており、当時から住んでいた世代は高齢化している。子供が遠方に引っ越して身寄りが近場にはいない世帯も多く存在しており、ひとり暮らし高齢者や高齢夫婦世帯の割合が高い。	
活動目標	・介護支援専門員が権利擁護の視点を持てるようなセミナーや相談会を行う。 ・地域住民が気軽に法律関係の相談ができる資源を作る。 ・成年後見制度の周知を行う。	
活動内容 (具体的取組み)	・地域包括支援センターと協力して、地域の介護支援専門員を対象に終活セミナーを実施。成年後見制度の活用事例や死後事務委任契約についても学んでもらった。 ・奇数月の第三火曜日に地域にて地域住民や介護支援専門員を対象に相談会を実施。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・ケアマネジャーや地域住民が気軽に相続や成年後見制度について相談できる社会資源が増え、困難事例の解決や専門職のスキルアップにつながっている。	
今後の課題	・無料法律相談について知らない方も多い為、今後は周知活動に力を入れていく。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4年7月21日(木)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性 (拡張性) ☒ 専門性 ☐ 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント		
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見	ケアマネジャーや地域住民が相続や成年後見制度という専門的な分野に相談できる機会が増加している事は専門性で評価できる。	

課題対応取組み報告書

名称	東住吉区矢田東総合相談窓口
提出日	令和 4 年 6 月 13 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	地域の身近な相談窓口としてネットワークを広げる	
地域ケア会議から 見えてきた課題	取り扱ったすべてのケースで 認知症 精神疾患 (被害妄想など) 知的障がい のいずれかがあり支援を拒否している。	
対象	ひとり暮らし高齢者、地域関係者、医療関係者	
地域特性	矢田北、矢田東ともに高齢化が進み地域の役員も高齢化しており、任期で交代できたとしても世代は変わらないこともある。コロナ禍からの地域イベントの再開に積極的な役員は多く、主となる方が方向性を示しつつボランティアに支えられながら、住民の方々のため尽力されている。	
活動目標	困難ケースに至る前に早期に相談してもらえるよう、地域との関係を強化し身近な相談窓口として認識してもらう共に、地域の気づきを届けてもらう。また様々な機関が連携し、幅広く支援できるようネットワークを構築する。	
活動内容 (具体的取組み)	■ 矢田東市営住宅 - 団地の班長会議に参加 - 毎月第 1 土曜日に開催される自治会義に参加し、総合相談窓口 (ブランチ) (以下「ブランチ」という) の周知活動や介護予防教室の案内、参加呼びかけを行っている。 - つどいの広場参加 - 毎月第 2 土曜日に開催している介護予防教室に参加し、参加者の様子をうかがいつつ近況等について聞き取りを行っている。 ■ 地域会館 - 地域福祉サポーターを始めとした地域関係者との関係強化 - 定期的に訪問し、ケース情報の共有や地域活動についての意見交換をしている。 ■ 地域住民 - 支援を受けていないひとり暮らし高齢者やハイリスク世帯など定期的に連絡、訪問対応している。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	○ 市営住宅ゆうあい訪問 - 地域福祉サポーター、団地自治会、見守り相談室、地域包括支援センター (以下「包括」という)、ブランチでゆうあい訪問を行った。市営住宅の老朽化のための建て替え転居後の様子、コロナ禍での様子をうかがうためのアンケート調査も同時に行なっている。 ○ 矢田中学校認知症キッズサポーター養成講座開催 - 地域と中学校とのつながり、関係性から講座開催についての意向を聞いてもらうことを依頼し、積極的に検討してもらえることが分かり、関係機関と連携し区内で初めて中学校での講座開催にいたることができた。 ○ ハイリスク世帯の見守り 2 年を越える期間の訪問を続ける中で、地域と少しずつ情報共有をし、地域ケア会議開催を契機に地域、専門職とで新たな対応を始め、介護サービスの利用、地域のゆるやかな見守りを行ってもらう体制を作ることができた。	
今後の課題	○ 地域の輪からすでに離れている世帯への対応 - 相談として上がってきた時には既に困難な状態になっていることが多い。つながりがいないため、近隣も気づいたとしても「他人の家の事」としてなかなか相談してもらいにくい。 ○ コロナ禍での地域活動の減少、縮小 - 地域住民と関わる機会が減っており、数の減少もあるが、つどい場の種類も減っているためひとつの活動にだけ参加していたような人とは顔を合わせる機会がなくなった。	

以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4 年7 月25 日 (月)
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	市営住宅のゆうあい訪問を通じて、アンケートの実施を行い、課題について話あいを積み重ねており、専門性、独自性、地域性に該当する。地域と中学校のつながり、関係性から中学生への認知症啓発を実現させたり、地域への関わりを続けて関係性を築いて来ているところは専門性、継続性、浸透性に該当する。また支援に入りにくいハイリスク世帯への定期訪問で関係づくりを続けたり、地域ケア会議を契機に、地域関係者の協力を得て役割分担ができ見守り体制を構築しているなど、専門性、継続性、地域性に該当する。 今後もランチならではのきめ細かな活動を続けていただきたい。

課題対応取組み報告書

名称	東住吉区白鷺総合相談窓口
提出日	令和 4 年 6 月 14 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等)
	☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他 ()
活動テーマ	高齢者の支援を地域関係者と協働し行えるように、顔の見える関係づくりを通して、早期相談につなげる
地域ケア会議から 見えてきた課題	ひとり暮らし、認知症の方で、地域の支援や専門機関などつながっていない場合、相談に上ってこないケースが多く、公的な支援が関わるまでに時間を要する。
対象	白鷺地域 (今川地域、育和地域) の住民。
地域特性	古くからの住宅地で長年住んでおられる住民は地域との関係性も強い。ボランティア活動、見守り活動が活発で地域の福祉活動の歴史も古い。一方では町会に未加入のアパート等のひとり暮らしなど、地域とのつながりが希薄な高齢者も多い。
活動目標	地域への総合相談窓口の周知を行い、地域支援者、地域包括支援センター (以下「包括」という) と連携し、早期発見・早期相談につなげる。
活動内容 (具体的取組み)	新型コロナウイルス感染症拡大防止の中、地域の集い場等での関係づくりおよび包括と地域支援者、専門機関等との間で情報共有と連携を行った。 今川地域、育和地域の介護予防教室において「介護保険と包括の役割について」の解説と包括・総合相談窓口 (ブランチ) (以下「ブランチ」という) の周知活動を行った。 区内郵便局長会議に参加。包括・ブランチの周知を行い、各郵便局に包括のパンフレットの配架、およびブランチ圏域の郵便局にはブランチのチラシも併せて配架を行った。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため地域の集い場の休止が続いたり、再開の難しい中ではあるが、介護予防教室での介護保険制度の解説や総合相談窓口の周知の後、介護相談を受ける機会もあった。郵便局など直接の支援機関ではない所に周知を行ったことで、地域での新たな協力関係ができ、早期発見の仕組みづくりが進んだ。
今後の課題	包括、地域支援者、専門機関との情報共有および連携し高齢者の支援に努める。地域にある高齢者が身近に利用される機関、郵便局、商店等 にも総合相談窓口の周知を行うとともに、包括と連携し商店等での出張相談を行い、早期相談につなげる。
以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4 年7 月25 日 (月)
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☐ 専門性 ☐ 独自性
評価できる項目 (特性) についてのコメント	・郵便局、スーパー、電気屋等身近で高齢者が集うところに焦点をあて周知活動を継続している。新たな協力関係ができ、早期発見のしくみづくりが進んだところは、地域性、継続性に該当する。高齢者と地域関係者にあらゆる機会を通じて、顔の見える関係作りを継続し、ブランチならではのきめ細かな活動を続けている。
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	

課題対応取組み報告書

名称	東住吉区矢田西総合相談窓口
提出日	令和 4 年 6 月 10 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☒ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	地域高齢者との顔の見える関係性の構築	
地域ケア会議から 見えてきた課題	ひとり暮らしの高齢者や老々世帯では、様々な心身機能の低下が原因となり、これまで出来ていたことが出来なくなり生活に不自由が生じている。我慢できる限り我慢して過ごされたりしていると、支援者が関与するときには、課題の早期解決が難しくなっていることも多い。このような状況を避けるに、何も起きていない早い時期から何らかの関りを得られていることが望ましい。	
対象	矢田西地域のひとり暮らし高齢者世帯、老々世帯	
地域特性	築50年相当を超える木造集合家屋があり、建物の老朽化と住人の高齢化が共に進んでいる。市営住宅も一部立て替えられているが、住人はそのまま移り住まれ、全体的に住人の高齢化は明らかである。対照的に現代的な家屋の増加も認められ、入居される新しいファミリーの増加が就学児童の増加となっている。取り壊された古い賃貸住宅の跡地は、現代的な家屋の建築が進められている。	
活動目標	他機関との連携を進めながら、総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）と地域の高齢者との間で顔の見える関係性を構築し広がり求める。	
活動内容 （ 具体的取組み ）	地域の高齢者との顔の見える関係づくりを求め、地域の集いに参加する。加えて、アウトリーチ活動を展開する。参加した地域の集いでは、参加者との挨拶や対話、相互交流に努める。各戸へのアウトリーチ活動では、パンフレット・リーフレットの配布から始め、直接対話につなげる。地域を移動している際に、道行く高齢者と偶然的対話機会が得られたときは、ランチ周知を行う。	
成果 （ 根拠となる資料等があれば添付すること ）	アウトリーチ活動の一環として、アポなし訪問により名刺とパンフレットを渡せていた世帯から数日後に電話を受けることが出来、介護保険の認定申請と病院入院に向けた支援をケアマネジャーと行うことができた。支援を必要としないと主張されて関与を拒否されていた方が病気により入院、A D L の低下に伴い元の住いに戻ることが望ましくないと考えられる事例では、僅かな関係性であってもそれが助けとなり、拒否を受けることなく他区の市営住宅移転に結びつけることが出来た。 被相談者から、同じ賃貸平屋長屋に住まわれている別の相談者の紹介を受けた。	
今後の課題	地域の高齢者との間で得られたこれまでの関係性を失わずに、新しく得られる高齢者との関係性を蓄積、関係性の広がり求める。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4年7月25日 （ 月 ）	
専門性等の該当 （ 該当個数は問わない ）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性 ☐ 専門性 ☐ 独自性	
評価できる項目（ 特性 ） についてのコメント ＊今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・地域の特徴を把握し、アウトリーチ活動を通じて、ランチに相談があり、介護支援専門員へつないでいる。元気なうちから相談先として知っておいてもらうことで相談につながり、関係性を作り続け積み重ねているところは、地域性、継続性に該当する。ちょっとしたきっかけを見逃すことなく、相談者に寄り添っている。引き続き地域の高齢者と顔の見える関係づくりを蓄積するとともに、支援機関に対してのネットワークづくりを期待する。 ・ひとり暮らし高齢者等を孤立させないための取り組みによって、必要な時に拒否なく関わったことは、他にも応用できそうである。孤立の予防につながると考える。	

課題対応取組み報告書

名称	西成区あいりん地域総合相談窓口
提出日	令和 4 年 6 月 6 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☒ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	情報弱者である、あいりん地域住民に対しての支援 (ワクチン予約・給付金申請)	
地域ケア会議から 見えてきた課題	あいりん地域の高齢者たちは、地域とのつながりや親族関係が希薄で、携帯電話を持っている方も極めて少ない。とにかく情報が本人のもとに届きにくく、届いてもどうしたらよいかわからない方が多い。	
対象	あいりん地域住民	
地域特性	あいりん地域は、ひとり暮らし男性高齢者の生活保護受給者や、低年金受給者が多い。その住まいは簡易宿泊所転用型が多く、管理や支援、住環境が整っていない。また家族とのつながりや地域での人間関係は希薄で、アルコールやギャンブルに依存し、孤独な生活を送る人が多い。	
活動目標	希望する方全員のコロナワクチン予約代行・給付金申請支援からはじめ、信頼関係を築いて信用してもらう。何かあれば相談できる関係づくりの構築	
活動内容 (具体的取組み)	大阪では緊急事態宣言が発令され外出・訪問がはばかれる状況になった。役所は訪問に行けず、介護保険事業所も新型コロナウイルス感染症関連で軒並み閉鎖され地域のひとり暮らし高齢者は取り残された状況になった。体調不良で外出できない方はいないか困っている方はいないか等、大家さんや近隣病院に聞き取りにまわった。支援が必要な方は発熱外来に同行し買い物支援も行った。また、あいりんランチの行事に来てくれた方には、手作りマスクとともにワクチンの予約を取りますと明記したコロナお見舞いを送付した。1日でもはやくワクチンを打ちたい方はたくさんいたが、携帯電話もスマートフォンもない状態での予約はかなり難しく、公衆電話で毎日1000円近く使っても予約が取れないと困り果てている方にはこちらから声掛けし予約を代行した。給付金についても返信の方法がわからず生活保護にももらえないと思い込んでいる人も多かった。またあいりん地域総合相談窓口通信「あいりんりん」を発行し掲示、配布を行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	コロナワクチン予約だけで80人以上の予約を代行した。忘れてしまう方には前日に訪問して知らせ、現地まで1人で行けない方は同行も行った。細やかなアウトリーチのおかげで、コロナ禍の中 相談実人数199人 相談件数4462件 とあいりんランチ歴代1位の相談人数・相談件数になった。	
今後の課題	ある程度成果を上げることができたが、地域住民の数からするとまだまだ埋もれているケースが多々ある。今後も役所や地域包括支援センター、地域団体、大家さん等と連携を図りアウトリーチに力を入れていきたい。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4年7月4日(月)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☐ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	体調不良で外出できない人がいないか、困っている人はいないか等、地域柄、総合相談窓口 (ブランチ) から出向いて情報を聞き取りに行く姿勢は多いに評価できる。今後も地域に密着した支援を期待する。	

課題対応取組み報告書

名称	西成区成南地域総合相談窓口
提出日	令和 4 年 6 月 20 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☒ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	地域高齢者の居場所作り	
地域ケア会議から 見えてきた課題	ひとり暮らし高齢者の居場所がない 認知症のため、外出が困難になった高齢者が多い ひとり暮らし男性高齢者のほとんどが、地域との関りがない 固定電話及び携帯電話を持っている人が少ない 生活保護費に近い年金の人が多いため、必要な支援サービスが利用できない 時間に制約されることを嫌う人が多いため、支援を拒否する人が多い 定期的な医療受診がなく、かかりつけ医がいない	
対象	千本地域のひとり暮らし及び認知症高齢者	
地域特性	ひとり暮らし高齢者が多く、特に男性ひとり暮らし高齢者が多い 文化住宅が多く、2 階に住んでいる高齢者が多い 家族がなく、親戚など身寄りがいない高齢者が多い 食事は外食やコンビニ弁当、入浴は銭湯で済ませている高齢者が多い	
活動目標	家に閉じこもりな高齢者の地域行事参加	
活動内容 (具体的取組み)	【めぐみ喫茶】【りんどうのつどい】 日時：毎月第3金曜日13：00～14：30 場所：社会福祉法人慈福会めぐみ 3階会議室 内容：飲み物とおやつを提供 目的 地域住民に外出する機会、交流する場の提供 総合相談窓口の周知活動及び介護保険制度の周知活動 認知症・精神疾患・閉じこもり等、複合的な困難をかかえた高齢者及び家族に参加を呼びかけ、喫茶参加者と共に支援ネットワークを構築する	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	【喫茶の中で地域の課題に取り組む】 喫茶の中で福祉用具の展示と体験を実施。地域住民の中で福祉用具 (オープンナー) が必要な高齢者を見出し、日常生活の改善を図ることができた。 地域の周知活動を通して、家に閉じこもっている高齢者と御家族の参加に結びつけることができた。車イスでの参加を実現し、本人から「今度はいつ喫茶やるんや」という発言を引き出すことができた。 地域の介護事業所にも参加を呼びかけ、今後の支援で悩んでいる介護支援専門員と話す機会を設け、支援体制の構築を図った。	
今後の課題	1 地域の民生委員や見守り相談室等にも参加を呼びかけ、認知症の方でも住み慣れた地域で生活できる支援ネットワーク作りの構築を図る。 2 参加者も多くなり慈福会めぐみの職員だけで運営できないので、喫茶運営のボランティアを募る。 3 前年度開催できなかった百歳体操の再開時の内容を検討する。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4年7月4日(月)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☐ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	場の提供だけでなく、複合的な困難を抱えた高齢者や家族に参加を促したことや、福祉用具の展示や体験を取り入れるなど積極的な支援がされている。参加者から次回を期待される声もあることも評価できる。	

課題対応取組み報告書

名称	西成区南津守地域総合相談窓口
提出日	令和 4 年 6 月 21 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等)
	☒ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他 ()	
活動テーマ	認知症高齢者への支援体制について	
地域ケア会議から 見えてきた課題	近隣住民は認知症の事例に気づいてはいるが、相談機関に繋がらない。相談機関(地域包括支援センター・総合相談窓口 (ブランチ))があるという事が知られておらず、生活課題が重大になってから介入する事例が多い。	
対象	地域住民と介護事業所及び相談機関を対象とする。	
地域特性	南北に長く、北部・中央部に市営住宅、南部にはワンルームマンションが多く、そこでの居住者はひとり暮らしの高齢者や、高齢者世帯が多く、増加傾向にある。	
活動目標	認知症高齢者への支援体制の構築	
活動内容 (具体的取組み)	地域包括支援センター (以下「包括」という) と共同で介護事業者、見守り相談室などの相談機関を対象にアンケート調査を行い、南津守地区地域ケア会議アンケート結果から見えてきた課題のまとめ会議を行った。アンケートの意見より「認知症サポーターが地域で活躍できることが望ましい」という意見があったことから、認知症地域支援コーディネーターと協力し、あゆみ工房にて認知症サポーター養成講座を行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	講座開催後、参加者より、「認知症への理解が深まった」、「もっと詳しく知りたい」、「事例を通して学びたい」の意見があり、認知症への理解を深めてもらう事が出来た。また、認知症の始まりと思われる個別事例に關しての相談があり、包括とランチで対応した。	
今後の課題	・地域住民に相談機関の存在を知ってもらう為に、地域住民が集まる店舗などへの周知チラシ・ポスターの掲示による周知活動。 ・今後支援が必要となる可能性の高いと予想される市営住宅の関係者と顔の見える関係を作り、早期発見・対応が出来るような仕組みづくりが必要である。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4年7月4日(月)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☒ 専門性 ☐ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	見えてきた課題から、認知症サポーター養成講座を行い、認知症の早期発見・早期支援に繋がったことは評価できる。今後も、地域に相談窓口の周知を行い、早期の相談へつながることを期待します。	

課題対応取組み報告書

名称	西成区梅南・橋地域総合相談窓口
提出日	令和 4 年 6 月 17 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☒ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	「身近な集いの場の発展から、地域住民がつながるまちづくり」	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・ひとり暮らしの高齢者が多い。特に男性が多く、地域とのつながりが希薄である。 ・地域とのつながりが希薄であることから、生活等に課題を抱えていても気づかれずに状態がかなり悪化してから介入するケースが多い。 ・8050問題や老老介護など世帯で課題を有するケースも多く、様々なアプローチが必要である。 ・新型コロナウイルス感染症が長期化しており、感染予防の観点から大きなつながりの場から、小さくとも身近なつながりの場への転換が求められている。	
対象	・圏域内地域住民	
地域特性	・昔から住まわれている住民が多い一方、新しく移られてきた住民も増えてきた。地域関係者の高齢化が課題で有る上に、町会の組織率も低下傾向にあり次世代へのバトンタッチが難しくなっている。 ・高齢化及び単身世帯率が高く、閉じこもりがちで社会と疎遠になる方が多い。	
活動目標	・感染予防に十分配慮しつつ、開催されている集いの場の継続支援。 ・地域のコミュニティーから疎遠となっている、男性の居場所づくり。 ・地域と疎遠になっている方と、地域とを結び付けて行く。	
活動内容 (具体的取組み)	○松之宮地域での集いの場「スマイル」 ・松之宮地域で開催されている自由な居場所としてのスマイルの開催継続に、ネットワーク委員会・北西部地域包括支援センター (以下「包括」という) と総合相談窓口 (プランチ) (以下「プラランチ」という) も協働。ゆったりとした集いの時間に加え消費者問題講座や健康講座、地域で活動している腹話術等のボランティア等多彩な講師をプラランチや包括より地域に紹介。「スマイル」の内容の充実に貢献した。 ○「気配りさんサミット」 ・「スマイル」の場をお借りして、北西部包括が取り組んでいる地域でのゆるい見守り活動である気配りさんの意見交換会「気配りさんサミット」を地域住民、ネットワーク委員、包括、認知症初期集中支援チーム、区社会福祉協議会体制整備とプラランチで協働し開催。令和3年度は4月の第1回開催に続き7月・11月・3月と計4回開催する事ができた。気配りさんの日頃の活動や悩み事、近所の気になる人などを個人情報保護に留意しながら、話し合うことが出来た。 ○「松之宮地域百歳体操」 ・百歳体操では会館にテレビが無い事もあって、プラランチ、包括、区社会福祉協議会体制整備で協力し、体操や脳トレのリーダーを役割分担し実施してきた。体操や脳トレを毎週1回でも継続する事で運動する習慣が形成され、日々の生活に活気を持つ場となった。 ○男性の居場所としての「梅南おとこまえ百歳体操」 ・地域のコミュニティーから疎遠となっている男性の居場所づくりとして「梅南おとこまえ百歳体操」今年度より開催。梅南ネットワーク委員会との開催検討会議を踏まえ、区社会福祉協議会体制整備や見守り相談室、北西部包括とプラランチが協働し、4月より毎週水曜日に開催。はぎのさと別館を会場としているが、年度当初に緊急事態発令により会館の使用が1か月間出来ない事態が有った。しかしせっかく身についた運動の習慣を途切れさせたくは無いため思いを受け、会館前の公園で十分に距離を取り、屋外にて開催継続してきた経験もある。下半期からはヤクルト南大阪広報室より健康管理担当者を講師として招き、毎月1回体操終了後に30分程度の健康講座や自宅でもできるヨガストレッチなどの学びの時間も設けることが出来た。 関係者間で地域で気になる男性をリストアップ。感染症が長期化する中で、声を掛ける人の条件を絞りつつ百歳体操への参加を呼び掛けた。	

成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	○「スマイル」 ・コロナ禍の中でも感染予防をしっかりと行い、毎週水曜日に開催継続出来た事で必ず参加出来、なじみの顔と顔を合わせる事が出来る場所が有る。その事により参加者が、孤独を感じる事が無く暮らせる発信源となった。会場設営は参加者自身が積極的に役割を果たす。またお休みの人が居ると他の参加者が、帰路様子を伺いに立ち寄る等連帯感を感じる場所ともなった。 ・ヤクルト健康講座や西成消防署による予防救急、防火啓発西成警察署による防犯かるた。消費者センター出前講座での最新の消費者問題啓発等多種にわたる講座や取組みで、参加者の日常生活に役立つ情報提供も行った。また近隣に住まわれるボランティアによって腹話術やマジックも定期的に行われ、「スマイル」の楽しみの一つとなると共に、ボランティアの日頃の研鑽の披露の場ともなった。 ○「気配りさんサミット」 ・「気配りさんサミット」によって参加者が自ら持っている情報を提供し合う事により、最近気にかかる人情報が浮かび上がってきたり、街の変化の様子が見えてきたりした。今後のまち、ひと、お互いの見守りあい活動への、出発点となる会議となる。 ○「松之宮地域百歳体操」 ・新型コロナウィルス感染症により、それまで使用してきた特養会議室から、現在の老人憩の家に移り2年が経過。当初200グラムの重りで筋力運動を行っていたが、計画的に負荷をあげて行き現在は600グラムの重りを使用するまでに筋力向上してきた。百歳体操の中に腹筋や臀部について独自の運動を取り入れている。百歳体操終了後、百歳体操には含まれていない部分の筋力向上、動作向上を図り、上半身下半身のトレーニングも取り入れている。週1回ではあるが毎週継続する事で身体機能が向上し、参加者より日常の生活が楽にできる様になり、活発に過ごせるようになったとの声も多数聞こえて来る。 「スマイル」「松之宮百歳体操」について認知症の方と介護する家族などを、区社会福祉協議会見守り相談室や包括、介護事業所と協働し参加への支援を取り組んだ。地域の住民との触れ合いの中で楽しみのある時間を持つ事が出来、悩みの相談も気軽にできる関係性も構築できた。 ○「梅南おとこまえ百歳体操」 ・毎週百歳体操を開催する事で、閉じこもりがちな男性でも自分のペースで参加する事ができる場所が出来た。運動する習慣が身に付いた事で、「少しずつ外出の機会も増えてきた」「階段を上る時息切れする事が少なくなった」「ここで友達ができ、野球の話をする相手ができた」等活気のある感想をたくさんいただいた。 妻の介護に疲れている男性や、介護が終了し喪失感に悩む男性、依存症から抜け出しつつある男性等を区社会福祉協議会見守り相談室、体制整備、包括、保健福祉課保健師と協働し取組みへの参加呼びかけを行い、参加に結び付ける事も出来た。
今後の課題	○地域では高齢化が進んでおり、活動の担い手も高齢化しており一部の役員に負担がかかっている現実もある。新たな担い手を地域と専門職が協働し、発掘育成する必要がある。 ○感染予防により地域の集いの場が少なく、男性だけでなく女性からも集いの場の必要性の声を多く聞く様になってきた。広い層の方が集える場の開催も求められている。
以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4年7月4日(月)
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目(特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	活動の中で、設営等で参加者自身に役割を果たしたり、欠席者の様子を伺うため他の参加者が訪問したりと高齢者自身が自ら行動できるよう運営・支援していることは大いに評価できる。

課題対応取組み報告書

名称	西成区山王地域総合相談窓口
提出日	令和 4 年 6 月 17 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☒ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	続～地域住民が主体的に参加できる活動を通じて総合相談窓口の周知を図る	
地域ケア会議から 見えてきた課題	1 ひとり暮らしの認知症高齢者の支援では、複数の課題をかかえており支援が長期化する。認知症が悪化してから相談が多いため、早期発見・早期介入が課題。 2 介護サービスのつなぎ以前に、生活困窮の課題、負債や介護保険料の滞納等があり支援が難航する。	
対象	地域関係者、地域住民	
地域特性	昔ながらの建物・風景や長年居住されている住民同士の近所付き合いも残っている。その一方で集合住宅に住む ひとり暮らし高齢者世帯も多く、生活保護受給率も高い。身寄りがなく、繋がりが希薄な住民もみられる。	
活動目標	山王地域総合相談窓口 (ブランチ) (以下「ブランチ」という) が、気軽に相談できる身近な窓口として「地域に根ざした居場所の一端を担う拠点」であること。	
活動内容 (具体的取組み)	上記活動内容を引き続き掲げてきたが、長引くコロナ禍の状況下でブランチがある施設内で地域住民が集う企画が困難でもあった。そのため、地域の集会所を有効活用した。また、生活支援コーディネーターと積極的に意見交換、企画・連携を図りながらアウトリーチ事業への協力支援等も行った。 令和3年10月からスタートした「東部包括フリースクール」において、地域のボランティアへ手作り作品提供の声かけ・協力を行った。 地域住民手作りボランティアの方を講師として少人数での「よりあい・クリスマスリース作り講座」を開催した。 地域包括支援センター (以下「包括」という) との共催で集会所において「ポッチャ体験会」を実施。好評を博した。フリースクールでも毎回実施し、地域のこどもセンターでも取組みがあることから山王地域高齢者のポッチャクラブ発足を企画。 地域住民ボランティア数名による「みどり苑地域清掃」を毎月1回実施、継続している。 山王ブランチ「みんなの足湯ひろば」と題し、包括圏域内において天下茶屋ブランチ同様に「足湯」を共通キーワードに地域交流を図る試み。 飛田地域関係者へふれあい喫茶内で相談窓口の設置を提案・打診。12月の飛田ふれあい喫茶において、包括と共同で「よろず相談窓口」を開始。その後地域関係者が専用のテーブルを作成してくださった。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	作成者がフリースクールへ参加し、自身の作品をたくさんの方に見てもらったことで交流が生まれ、新たな創作意欲にもつながった。 地域住民ボランティア講師による手作り作品講座。少人数でゆったりとしたペースで取り組めた。誰もが得意なことがあり、伝えられる役割があると感じてもらった。 「山王ポッチャクラブ」案について生活支援コーディネーターと地域関係者へ相談・打診。次年度から集会所での百歳体操開催日に開始の運びとなった。 ブランチ地域清掃への対象者として認知症状があり、他者交流の機会が少ない方へ声かけ。家族の協力もあり、継続参加されている。清掃中に地域の思い出を饅舌に話してくださる。 3月に「みんなの足湯ひろば」デモンストレーション開催。4名参加。中には足湯を初体験の方もおられ、喜ばれた。次年度からは月1回定期開催。 飛田ふれあい喫茶へは毎回顔を出していたが、「参加」側から「地域との協力支援」側へと関わり方の変換に繋がれた。今後のふれあい喫茶でも継続し、顔の見える関係性を形成していく。	
今後の課題	「山王ポッチャクラブ」「みんなの足湯ひろば」等次年度へ繋がる企画が形となりスタートする。その活動の定着・継続について地域と支援者間でよりよい方法を検討しながら活性化に繋げていきたい。 地域住民ボランティア講師による講座はフォロー体制の工夫など次回以降の課題点も浮き彫りになったが、手法を検討しながらまた試みたいと思う。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4年7月4日(月)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	認知症の方や交流の少ない方へ、清掃ボランティアに参加してもらい、交流を持ってもらうはたきは大いに評価できる。 今後も様々な地域での活動に出向き、顔の見える関係性を継続し、引き続き身近な地域の相談窓口であることを期待します。	

課題対応取組み報告書

名称	西成区天下茶屋総合相談窓口
提出日	令和 4 年 6 月 10 日

カテゴリー (主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等)
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他 ()	
活動テーマ	男の足湯『のぞみ屋』の地域への発信	
地域ケア会議から 見えてきた課題	ひとり暮らしで生活している方のうち、認知症の進行により、金銭管理や身の周りのことができず、ごみ屋敷になったケースがあった。生活保護を受給している方では、ケースワーカー等が生活の変化に気づき、経済的に困っているのか、介護・医療に繋がっていない方なのか、支援拒否がある方へは、地域関係者と現状把握に努め、今後の方向性を検討する必要があった。	
対象	地域包括支援センター、生活支援コーディネーター、その他関係機関	
地域特性	ひとり暮らしで生活保護を受給している高齢者が多い。この数年で古い集合住宅が取り壊され、戸建てや賃貸マンションの増加傾向にある。民間事業者が開催する集いの場には、地元住民で女性が多い。	
活動目標	地域住民と協働で、男性高齢者の集いの場を地域へ周知していくことにより、自立支援、介護予防にも繋がることを医療・福祉・介護の専門職に共有できる	
活動内容 (具体的取組み)	令和 3 年度は天下茶屋連合振興町会の町会長の働きかけで、社会福祉協議会が発行している新聞「にしなり」9 月号に掲載された。1 0 月には令和 3 年度認知症等高齢者支援地域連携事業のイベント、『ほっと！ネット西成』フェスで動画上映を行う前に、動画作成企画会議を行った。天下茶屋連合振興町会の町会長、認知症強化型地域包括支援センター、東部地域包括支援センター、西成オレンジリングの会、生活支援コーディネーターが参加。同月に足湯の動画撮影を行った。3 月には『ほっと！ネット西成』フェスが西成区役所 4 階で開催され、西成に住む高齢の男性が、ほっとできる居場所や人々に出会う物語を内容とする動画に男の足湯『のぞみ屋』が上映された。同会場で『ほっと！ネット西成』フェスで、男の足湯『のぞみ屋』の体験ブースを設置して、地域の男性高齢者や医療・福祉・関係機関の方にも、足湯の体験をしてもらった。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	『ほっと！ネット西成』フェスで、男の足湯『のぞみ屋』の体験ブースを利用された方が、その後、当施設で開催している男の足湯『のぞみ屋』に参加された。区役所のケースワーカーや居宅介護支援事業所からも、社会資源として男性高齢者に情報提供してくれた。	
今後の課題	ひとり暮らしの男性高齢者の孤独死、ひきこもりによる日常生活動作能力の低下、認知症状の悪化が見られる方がいる。そういったことを防ぐ為にも、男性高齢者に興味や関心を持ってくれる活動や行事にアンテナを張ること、他地域ではこういった課題があるのかを情報収集していきながら、今後の取組みに活かしていく必要があると検討している。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和4年7月4日(月)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☐ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	「ほっと！ネット西成」フェスでの足湯体験から、利用につながったことは周知の効果で評価できる。足湯を通して、高齢者を必要な支援に繋げたり地域の課題を見出していけるツールになることを期待します。	